

2-1 経営の基盤

(1) 本校の実態と特色

- ・ 本校は明治7年に開校し、今年度で創立150周年を迎える歴史と伝統のある学校であり、現校舎は平成16年に落成する。平成17年3月には市町村合併により大仙市立四ツ屋小学校となる。
- ・ 諸教育研究会の公開や各団体の表彰も数多く、陸上・野球・ミニバスケットボール等の体育面や器楽部、図画工作・書写等での文化面の活躍もめざましい。
- ・ 平成4年に始まった「ゆりの木の集い」は児童・保護者・祖父母の三世代交流で、四ツ屋地区にまつわる活動を、地元公民館や地域住民の協力を得て行っている、本校の特色ある活動の一つである。
- ・ 平成13年4月に松倉小学校と統合し、新生四ツ屋小学校となる。旧松倉小学校区の児童は年間を通してタクシー通学、他の児童は徒歩で集団登校をしている。全校児童数は、松倉小学校と統合した平成13年度以降、190名前後で推移してきたが、昨年度は122名、今年度は128名と減少傾向にある。
- ・ 平成27年度からPTAによる朝のあいさつ運動が始まり、その翌年から地元公民館や防犯協会等の地域協力者も得て、月2回あいさつ運動を展開している。
- ・ 地元公民館や保育園と隣接しており、共催や交流を通して連携を図っている。
- ・ 大仙市学校教育目標の「生きる力を育み、社会を支える創造力あふれる人づくり」、大仙教育メソッドの「地域活性化に寄与できる子どもの育成」を目指し、大曲中学校区同一歩調で歩みを進めている。

(2) 地域の実態と願い

- ・ 本校は、大仙市役所から北東へ約5kmに位置し、近くには保育園や公民館、郵便局、JA四ツ屋が点在している四ツ屋地区の中心部にある。
- ・ 地域内は平坦な田園の続く市内有数の穀倉地帯である。近年は農業の多角化により、野菜や花卉等の生産が盛んであるが、専業農家は少なくなり、農外収入に頼る家庭が多くなってきている。また、地域内には国道105号線が通り、沿道には会社、工場、倉庫、コンビニ等の建物が建ち並び、学校周辺に新居を構える住民も多い。そのため、古くからの住民に加え、地域外から移転してきた新しい住民も増え、家庭環境や価値観の多様化が見える。
- ・ 地域住民は自分たちの住む地域愛が強く、保護者の学校教育活動やPTA活動などへの参加率も高い。地域をあげて、地域の中の本校への協力を惜しまず、愛着も深い。
- ・ 学校アンケート等によると、保護者や学校関係者の願いとして、「あいさつの励行」「学習意欲を高めること」「いじめの絶無」「たくましい心の向上」等が挙げられている。

(3) 児童の実態

- ・ 児童の多くは、器楽部や男女ミニバス・野球スポ少のほかサッカー、バレーボール等のスポ少活動に所属しているが、所属に分散が見られ、児童の減少により活動に支障をきたしているスポ少も見られる。
- ・ 児童は四ツ屋まつりなどの地域行事に参加しているが、自分たちの住む地域や社会をよりよくしていきたいという意識までは高まっていない。
- ・ 児童は明るく元気で、目標に向かって前向きに生活している。また、学級・学校が一体となった活動や縦割り班活動には、協調し積極的に参加する児童が多い。反面、生活・学習規律の未定着な児童、周りの児童と良好な関係を築けない児童、自分に自信をもてず自己有用感の低い児童、メディア利用の長い児童が見られる。
- ・ 昨年度の県学習状況調査の県平均との比較では、現5年は算で0.1、理で1.4ポイント上回っており、国で2.8ポイント下回っている。現6年は国で5.1、社で4.1、算で7.0、理で7.7ポイントといずれも上回った。今後も基礎・基本の定着を徹底しながら、課題解決型の実感を伴う授業展開と共通実践事項の徹底を図る必要がある。
- ・ 昨年度の新体力テストでは、特に低学年において県平均を下回る種目が多く、全校においては、長座体前屈に課題が見られた。多様な遊びの励行や、体育の授業における運動量の確保、実態を考慮した意図的な準備運動等の工夫が必要である。

2-2 経営の方針・具体的な施策 (◎：今年度の重点)

- ・児童・保護者・地域から信頼される学校づくりに努める。
- ・学校教育目標の具現化を通して、子どもの「確かな成長」と「確かな学力」を保障する。

(1) やさしく(豊かな心)

- ①思いやりの心と関わる力を育む活動の充実
- ◎②自他のよさを生かし、一人一人の居場所がある学級・学校の風土の醸成
- ③豊かな体験活動
- ◎④いじめ・不登校の未然防止と迅速なチームでの対応・支援
- ⑤特別支援教育の充実
 - ・特別な支援を必要とする児童の家庭との連携
 - ・「個別の指導計画」の蓄積などによる一人一人に寄り添った支援

(2) かしこく(確かな学力)

- ①学びを支える基本的な学習規律の定着
- ②基礎・基本の確かな定着
- ◎③課題解決に向けて自分で考え、学び合い、ゴールできる授業づくり
- ④自ら学ぶ家庭学習の推進と学習習慣の形成
- ⑤夢(目標)の実現に向けた実践力の向上

(3) たくましく(健やかな心身)

- ①安全教育の充実と安全対策の徹底
- ②基本的な生活習慣の定着
- ◎③体力の向上と粘り強くあきらめずに取り組む態度の涵養
- ④健康・食育教育の推進

(4) 地域と共に(地域貢献)

- ◎①地域の特性や文化、自然環境などを生かしたふるさと教育の推進
- ②身に付けさせたい力を明確にしたキャリア教育の推進
- ③夢を育む「もの・こと・人」との出会い
- ◎④地域から学び、地域への思いを強くする活動の重視
(生活科・総合的な学習の時間を柱として)
- ⑤地域と学校を結ぶ児童主体の「あいさつ運動」

(5) 教職員としての資質・能力の向上(指導力向上)

- ①教職員としての良識ある言動と人間力の向上
- ②安全指導、安全対策、危機管理の徹底
- ◎③確かな児童理解と共感的な支援
- ◎④児童の主体性や粘り強さを引き出す授業力の向上
- ⑤学校経営への参画意識の高揚と業務改善の推進
- ⑥家庭及び地域、関係諸機関との連携

2-3 学校教育目標

夢に向かって ふみ出す一步
～ やさしく かしこく たくましく ～
2024年の合い言葉 「チャレンジスイッチ オン！」

子どもたちが将来に向かってたくましく生きていくためには、人生に夢や志をもつこと、そして、それに向かって勇気をもって一步を踏み出すことが大切である。小学校生活の6年間は、子どもたちが夢に向かって一步ずつ歩みを進めるための資質・能力を育む重要な時期であるとする。

子どもたちが一步を踏み出すための基盤として、温かく良好な人間関係を築くことができるように相手を思いやり互いに尊重しあえる「やさしさ」、より深く学ぶために探求する心「かしこさ」を育みたい。また、一人一人がしっかりと一步ずつ歩みを進めることができるように、健康で丈夫な体、そして困難にもくじけないしなやかで強い心「たくましさ」を育てたい。

これらの基盤を育みながら、子どもたちが学校生活の中で踏み出す一步を支え合うために、今年の合い言葉を「チャレンジスイッチ オン！」と設定し、挑戦しようとする気持ちやあきらめずに最後まで努力する粘り強さを全校で目指す。互いに合い言葉を掛け合いながら、自身の行動を起こすきっかけとしたり、努力したことを価値付けたりすることを通して、学校全体の前向きな気運を高めていきたい。

子どもたちが、夢に向かって一步を踏み出せるように、知・徳・体の調和のとれた未来に通用する生きる力を育み、そして地域と共に生きる実感をもち、地域に貢献できる子どもたちの育成に力を注いでいく。

● 目指す姿

〈目指す子ども像〉

- ・互いに思いやりの心を伝え合うことのできる子ども
- ・主体的に学び、自分の考えをもち、表現できる子ども
- ・志をもち、粘り強く挑戦する子ども
- ・ふるさとを愛し、共によく生きようとする子ども

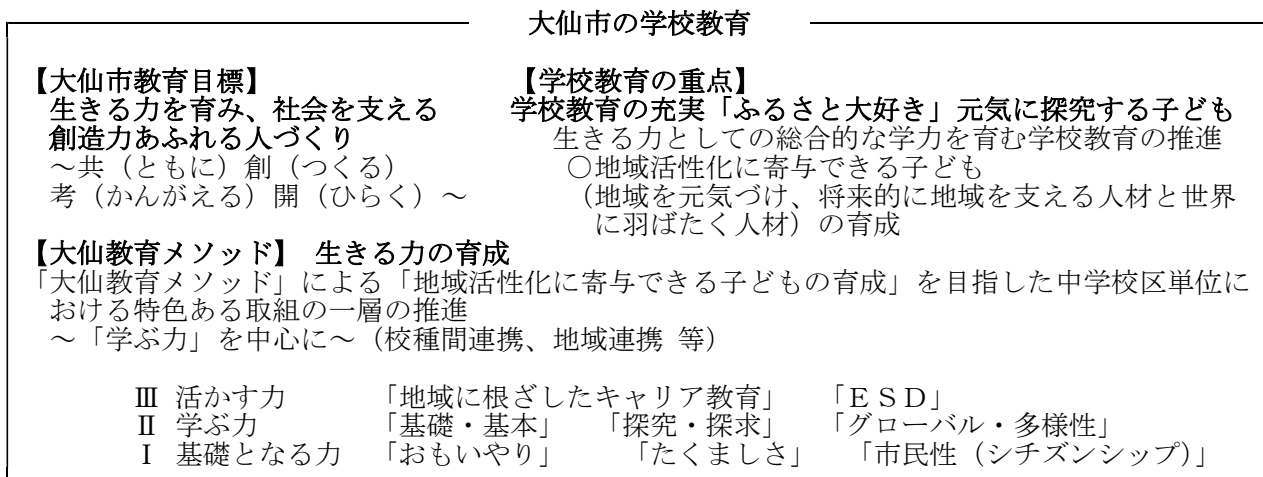
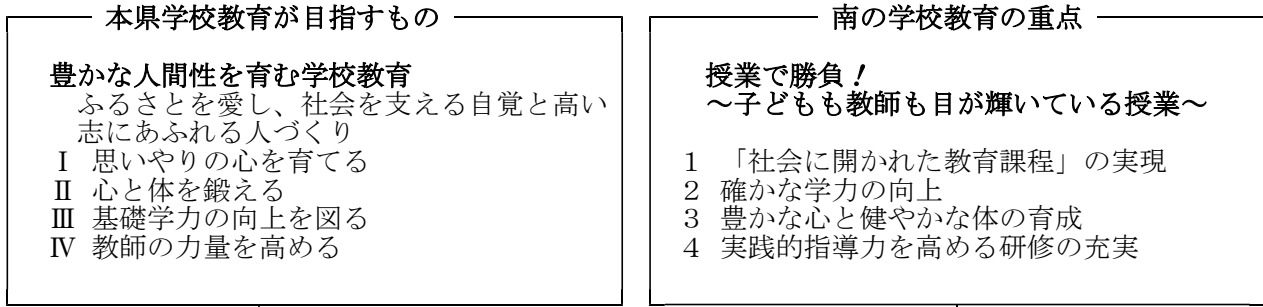
〈目指す学校像〉

- ・子どもにとって・・・学習内容が分かり、仲間と安心してつながる
“魅力ある楽しい学校”
- ・教職員にとって・・・自分の持ち味が発揮でき、子どもの成長に
“やりがいを感じる学校”
- ・保護者や地域にとって・・・思いや願いを共有し、
“共に子どもを成長させる ふるさとの学校”

〈目指す教師像〉

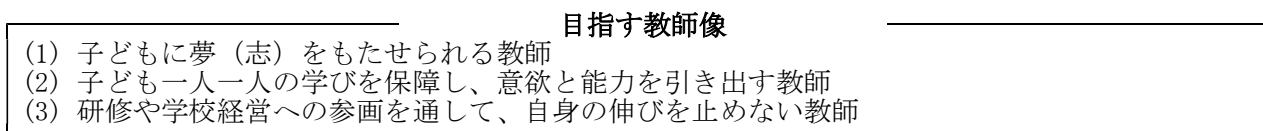
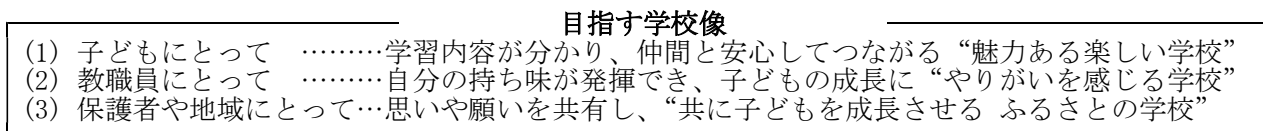
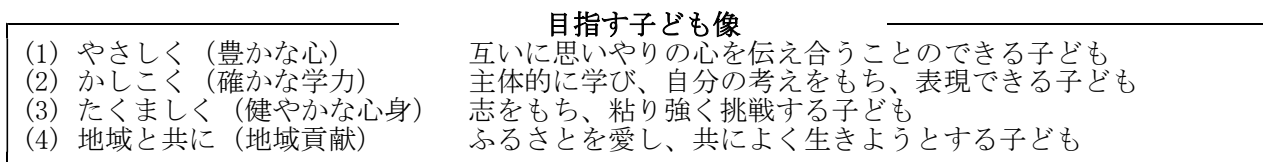
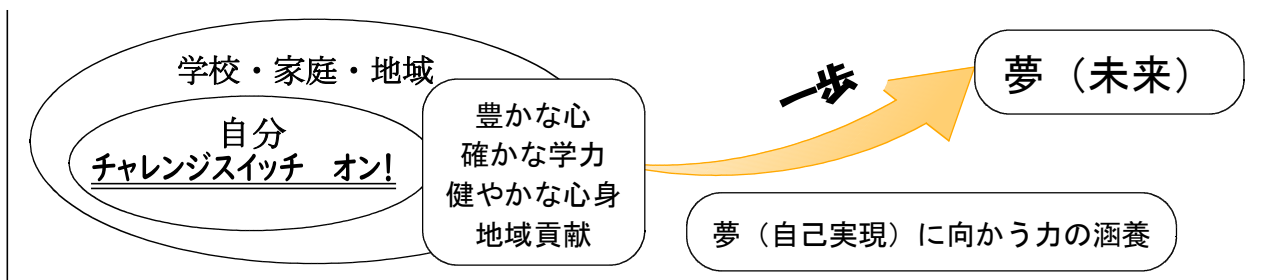
- ・子どもに夢（志）をもたせられる教師
- ・子ども一人一人の学びを保障し、意欲と能力を引き出す教師
- ・研修や学校経営への参画を通して、自身の伸びを止めない教師

2-4 全体構想



校 訓
自 発 ・ 自 律

学校教育目標
夢に向かって 踏み出す一歩 ～やさしく かしく たくましく～



2-5 R6 学校運営機構図

